

事例研究報告

**特別支援学校高等部の生徒に
一般就労に必要なスキルを教える**

保護者の願い

「就職してほしい」

就労する力はあるのだが、
不適切な言葉や迷惑となる行動も多い。
どうしたらいいんだろう。



生徒の実態

- 知的障がいがある高等部の男子
- 食に関すること, 人との関わり, つり, iPadが好き。
- 授業中, 友だちや教員に授業とは関係のない話をしたり, 隣の友だちの身体を触ったりしていた。
- 同じ作業が20分以上続くと, 使用している道具を振り回すことがあった。
- 通りがかりの友だちに, 腕を振り回してあてることがあった。
- 教員から注意を受けると興奮し, 乱暴な言葉を使ったり, 相手を突き飛ばしたりすることがあった。
- 毎日危険な行為が見られたため, スクールバスは利用できなくなっていた。
- このような迷惑行動によって, 友だちから避けられ始めていた。

教員の考え

「ルールを守って欲しい」

「迷惑行動を減らしたい」



アドバイザーからの助言

「減らしたい行動」より

「増やしたい行動」

を見つけることから始めましょう。



指導目標の見直し

アドバイザーの先生からの助言を受け、本校の『就業体験ガイドライン』を活用し、「就労に必要なスキルを学習する」という長期目標の達成につながる短期目標を「増やしたい行動」として考えました。

【日常生活上のスキル】

- ・学校や社会のルールがわかり、守ることができる。

【対人関係・コミュニケーション上のスキル】

- ・TPOを考え、正しい言葉遣いができる。

【作業上のスキル】

- ・指示通りに正確に作業ができる。
- ・コンスタントに作業ができる。かげ日向なく作業に取り組むことができる。
- ・職場のルールを理解し、守ることができる。
- ・6～8時間の立ち作業ができる体力がある。

指導目標の課題分析

授業で指導できるように、そして指導の成果が確認できるように、短期目標を課題分析し、より具体的な指導目標として書き出しました。

【短期目標】	【指導目標】
・TPOを考え、正しい言葉遣いができる	①丁寧な言葉遣いができる。 （本人が選んだ1授業時間のみ） ②丁寧な言葉遣いができる。 ③どの教員に対しても丁寧な言葉遣いができる。
・指示の通り正確に作業ができる	①特定の指示を守ることができる。 ②最後まで作業を続けることができる。 （トイレ、水分補給等の個人休憩あり） ③チェックシートを使って正確に作業をすることができる。

記録方法と記録

指導の成果を確認するために、指導目標がどのくらいできるようになったかを記録する方法を決めました。

そして指導を始める前に、どのくらい指導目標が実行されているかを、記録しました(これを「ベースライン」の測定と言います)。

注目してください
手を止めてください
あいさつをします

指導目標 ポイント数	丁寧な言葉遣いができる。 (本人が選んだ1授業時間のみ)	特定の指示を守ることができる。
○(2p)	自分から丁寧な言葉遣いできた	指示通りにできた
△(1p)	言い直しを促すとできた	個別の指示・時間がかかった
×(0p)	促しても直せなかった	3回以上の指示でできなかった

指導1: 振り返りシートとポイントシステム

【指導1】

- ・次のような指導計画を立て、10/20～11/4の間に実施しました。
 - 1) 振り返りシートを使って指導目標を自己評価するように教えました。
 - 2) 1日1時間、生徒が選んだ授業の担当教員が生徒の指導目標を評価し、ポイントを与えました。
 - 3) 期間中に目標ポイント(20p)が貯まれば後期の就業体験で校外実習に行くことを約束しました。

振り返りシート例

月 日 曜日 天気 ()

	教科	1	2	3	4-1	4-2	4-3	5	評価	確認者
登校										
1										
2										
3										
4										
昼休										

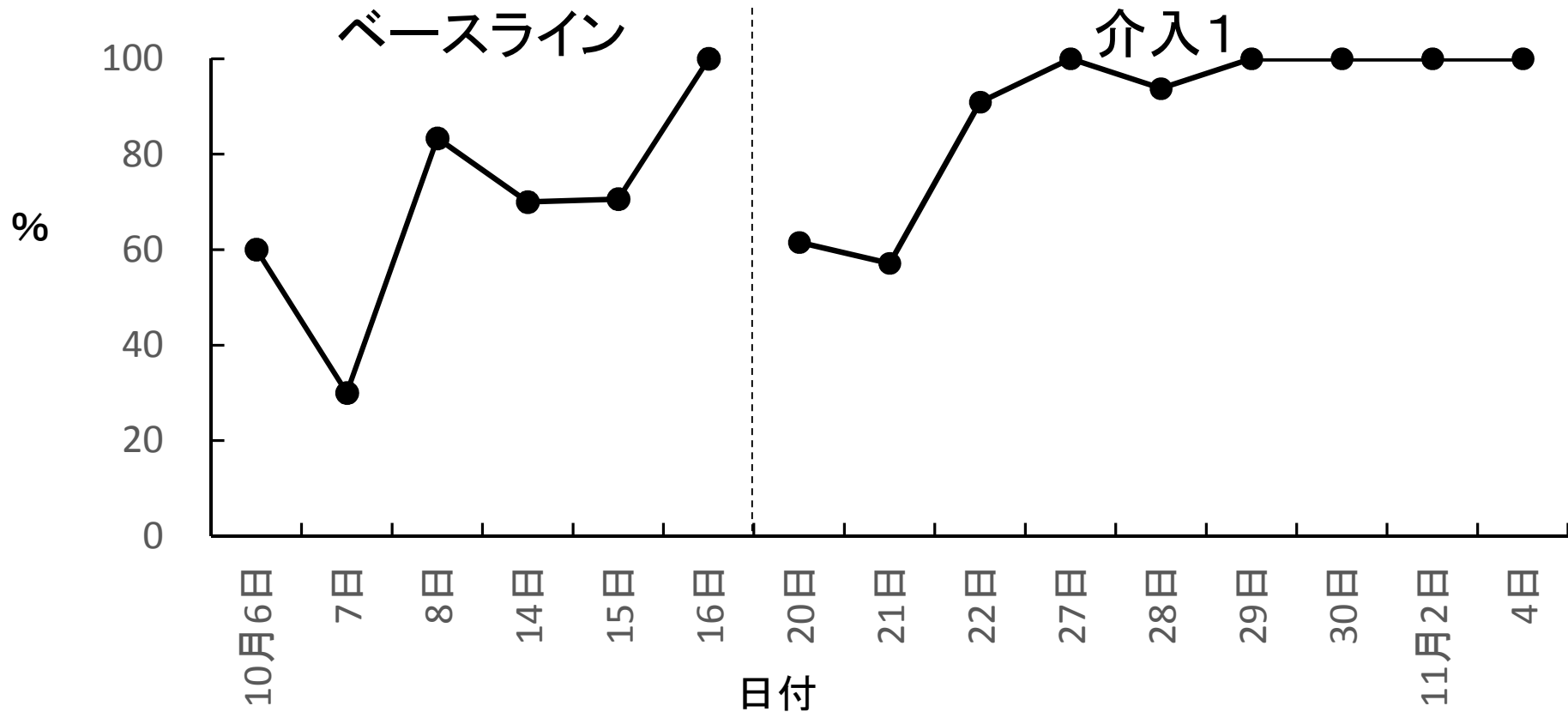
・ 今日一日を振り返って自分で点をつけましょう。(5点満点)

点

- | | |
|---|---|
| 1 | すべての先生と丁寧な言葉で話をする。 |
| 2 | あいさつをする |
| 3 | 身なりを整える |
| 4 | 授業中、静かに話を聞く (1)
先生の指示を守る (2)
むやみに友だちに話しかけない (3) |
| 5 | 友だちの嫌がることをしない |

指導1の成果

振り返りシートとポイントシステムを使って指導を進めることで、ほぼ100%丁寧な言葉遣いで教員と話ができるようになりました。
「～しましょうか」と生徒の方から言ってくるようにもなりました。



結果1: 丁寧な言葉遣いで教員と話ができた割合

指導2: 集団指導とポイント交換

【指導2】

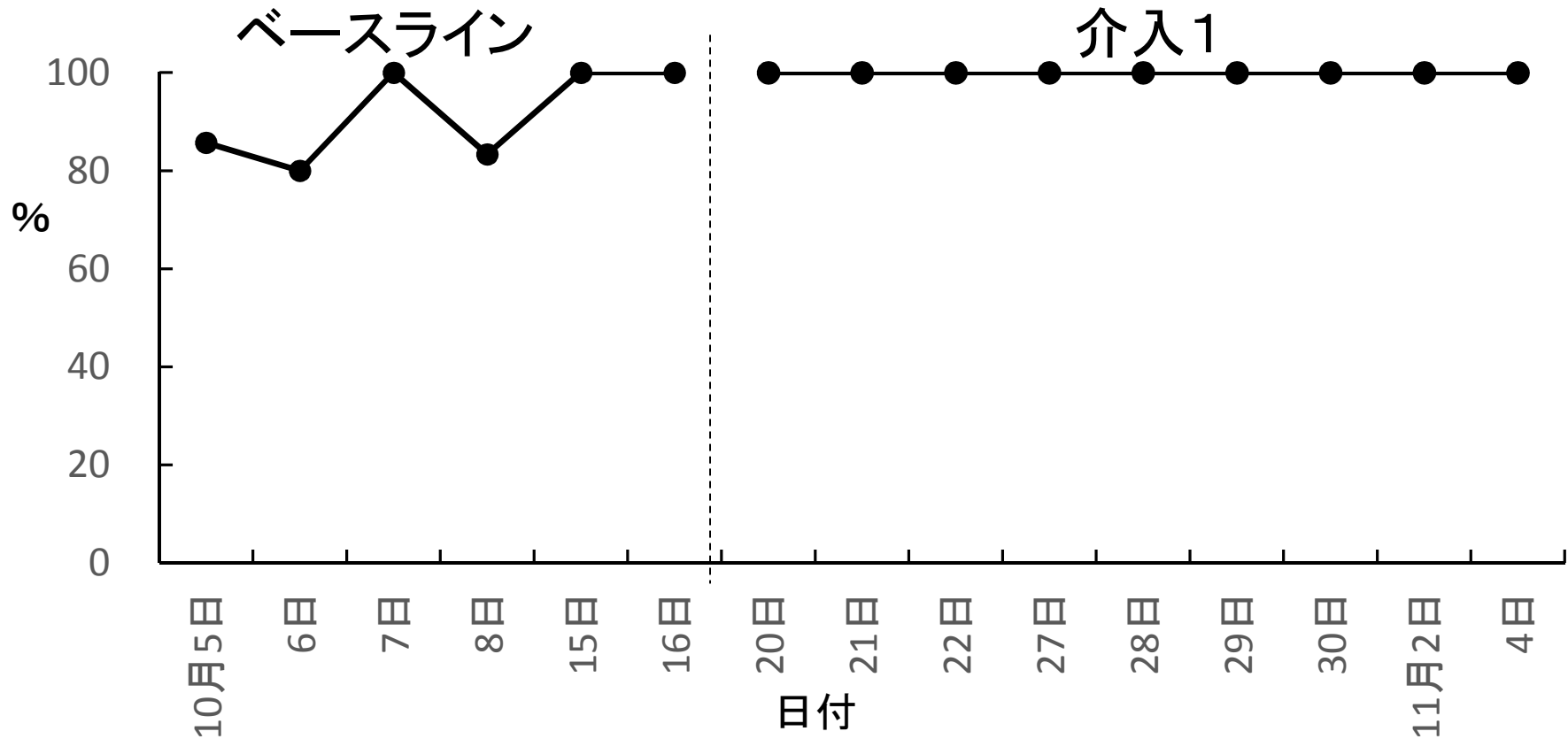
・11/12～11/27には就業体験校内実習の作業グループ全員に同じ指導を行いました。

- 1) 全員に同じ指導目標を設定しました。
- 2) 教員による評価で全員がポイントを貯められるようにしました。
- 3) 実習終了後にケーキ作りを行い、ポイントとケーキのトッピングを交換しました。

指導目標 ポイント数	丁寧な言葉遣いができる	最後まで作業を続けることができる
3p		休憩の指示まで作業を続けた
2p	自分から丁寧な言葉遣いできた	トイレ, お茶, ストレッチ, 汗をふく等の休憩をしながら作業を続けた
1p	言い直しを促すとできた	注意を受けると, 作業に戻ることもできた
0p	促しても直せなかった	注意を受けても作業に戻ることもできなかった

指導2の成果

ポイントシステムで指導を進めることで、作業グループ全員が100%、指示を守って行動できるようになりました。励ましあいながら取り組む姿も見られました。



結果2: 指示を守って行動できた割合

ここが成功のポイント



○「減らす行動」より「増やす行動」に着目して、指導目標を具体的に決める。

○ポイントシステムを作業学習グループ全体に導入して、本人も含めた友だち同士の動機づけを高める。

○記録をもとに教員チームで話合いながら授業を改善する。